

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 1 NUMBER 1 2022



巻頭言 新学会誌「色彩学」創刊に寄せて

会誌改革ワーキンググループ主査 坂本 隆 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

一般社団法人日本色彩学会の学会誌は、2022年2月から完全電子化され、学会誌名も「日本色彩学会誌」から「色彩学」へと変わりました。この巻頭言を今読んでいる皆様は、新学会誌「色彩学」を実際にご自分のパソコンやタブレット端末からご覧になっているはずです。新しい学会誌を皆様が気に入って下さることを祈念しつつ、まずは無事に創刊されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

学会誌を電子媒体で発行する構想は、2015年1月頃から練られておりました。まず最初に理事会等で議論された後に、電子化作業を推進するために、会誌改革ワーキンググループが設立されました。そして2016年4月には、J-STAGE（論文等をネット上に公開するシステム）を利用して、日本色彩学会誌掲載の論文と大会予稿などが無料公開されるようになり、学会誌の電子化が一部実現されました。さらにこの2022年に至って、ついに学会誌の完全電子化が達成された訳です。結果的に足掛け7年ほど歳月を要したことになります。完全電子化の実現が如何に難産であったか、少しでも皆様にご理解を頂けると、会誌改革ワーキンググループの苦勞も報われます。

私たち会誌改革ワーキンググループが目指したのは、紙媒体でなくても読み易く、紙媒体よりも利便性が良く、なおかつ発行と編集に携わる学会関係者への負担が少ない会誌にすることでした。こうした理念に基づき、様々な制約がある中においても、理想を追求し続けました。

私たちが作業を進める上で常に念頭に置いてきたことは、紙媒体の廃止を嘆かれる読書の皆様を置いてけぼりにせず、できるだけ配慮し、フォローすることでした。そして最終的にたどり着いたのが、電子書籍と

しての学会誌（PDF）を、パソコンやタブレット端末・スマートフォンにダウンロードして読んで頂く形態でした。この形態のメリットは、どうしても紙媒体で読みたい場合には、プリンターから該当ページを印刷して頂くことが簡単なことです。また電子書籍を気軽に閲覧できるだけでなく、バックナンバーの閲覧も簡単にできるメリットも感じて頂きたいと思います。電子媒体にしたことで、学会誌に掲載されるフルカラー画像や図版なども、鮮やかなオリジナルの状態で見ることができざるはずでした。

完全電子化を機に、幾つかの会誌改革も並行して実施しました。その一つが学会誌と論文誌の分離でした。学会誌と論文誌それぞれに適した編集作業を円滑に進められるように、編集委員会を分離し、委員も再構成しました。また学会ニュースが電子メールで届くようになり、学会誌を短期間に発行する必要性が減ったことを勘案し、学会誌の発行回数を年6回から年4回へと減らしました。その一方で、学会誌に掲載する記事数やページ数は増やし、読み応えのある誌面とすることも配慮しました。またこれを機に創刊される論文誌（日本色彩学会論文誌）も、完全電子化の長所を生かし、論文採録後すぐにJ-STAGE上に論文公開がなされる発行体制とするなど、今後数年かけて改革を推し進める予定です。

「色彩学」という誌名には、新学会誌創刊に携わった関係者の夢が詰まっています。「色彩学」という新しい学術体系を確立させるべく、学会として弛まず邁進して行こうという強い決意が込められています。それが読者の皆様にも伝わり、末永く愛される学会誌になることを、私たちは切に願っています。